



くにか動物病院長
(黒部市新牧野)

國香 正寿

家庭で飼われている猫の数は多くの国で増加しており、日本では2014年以降、猫の飼育頭数が犬を上回るようになってから、飼育頭数の差は年々拡大しています。動物病院に来院する猫の割合も年々増えています。それでも犬に比べて猫は動物病院で診察を受けることが少ないと感じています。

猫を動物病院に連れて行きたくないのは、猫をキャリーに入れたり、車で連れて行ったり、動物病院で怖がっている猫を扱ったりすることが難しいからだ、飼い主

猫の通院



キャリーに入ったネコ

さまからよく耳にします。猫がストレスを感じることなく、移動や健康管理をできるようにするために必要なことを考えていきましょう。

移動には、飼い主さまと猫の安全のためキャリーが必要となります。キャリーは①飼い主さまが持ち運びやすく、丈夫かつ安全で安定している②扉を開けた時にあま

キャリーに慣れさせる

り音が響かない作りである③キャリーの天井面が大きく開く、または上部を取り外せるという条件を満たすものが望ましいです。

いきなり猫をキャリーに入れないようにしても、怖がって入らない、落ち着かずに出てしまうといった事態になるので、キャリーに入るとよいことが起こると学習させることが必要です。部屋のどこかに常にキャリーを置いておき、その中でおやつを与える、好きなおもちゃを入れるなどをして、少しずつキャリーに慣れさせていき、安全な場所と認識させることが重要です。

待合スペースでは緊張・興奮させないよう、犬とは距離をとり、同じ目線に置かないよう気を付け

ましょう。必要であればタオルなどをキャリーにかけておくと、猫がより安心できます。

診察中は怖がらせないよう細心の注意を払いますが、どうしても不安や恐怖が強くなってしまいう猫もいます。ストレスを和らげるため、来院前に投与するサプリメントや薬もあるので、病院での処置や検査をスムーズに行うためにも、必要な場合は事前に先生と相談しておくとういでしょう。

猫を動物病院に連れてくることに対し、飼い主さまが自信を持つことにより、猫をケアできる機会が増え、猫の健康と福祉を向上できればと思います。

毎月第1土曜掲載